

「計画」

大津市立下阪本小学校

令和8年度□□我が校の学び力向上策

【県目標】第Ⅲ期学び力向上滋賀プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

きたえ 助け合い 学び続ける子ども
 ～ 人がつながり 一人一人が輝く下阪本小学校 ～ を育成する。

【現状と課題】

- 視点1 「言語活動」「端末」「課題設定」を3本柱とした「7つのアクションプラン」の実践
 (1) 子どものつばやきを起点に授業を進めている。一方で、考えの根拠や理由を言葉で説明する力に課題がある児童が多い。
 (2) ICTを「発表の道具」から「思考を支える道具」へと位置付け直す必要がある。
- 視点2 基礎基本的な学力の二極化が大きい。認め合いながらも基礎基本的な学習を補完し合い学び合える集団の育成が必要である。
- 視点3 「経験年数」「分掌」「学年のつながり」等の要素を加味し、全体を俯瞰した視点でのそれぞれの持ち場同士の連携や協力には課題がある。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①本校提案の「7つのアクションプラン」を実践していく中で、目的を明確にした言語活動の設計、めあてに迫るまでの見通しをもたせる工夫、振り返りからつながる学びの連続性の構築に重点をを置いた授業づくりの実践	①学校評価(教職員)の「指導改善」の「学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善を行った」の回答85%以上
②ICTを「発表の道具」から、比較・吟味・再構成を促す「思考支援ツール」として活用を図る	②児童アンケートで「勉強や行事では、目標をもってあきらめずに取り組んでいますか。」の回答85%以上

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①一人一人が安心して過ごせる居場所づくり、他の価値観や違いを認め合う集団づくり、児童が主体となった生活目標の取り組み、いじめを許さない、見逃さない学校・学級づくり、人間関係を構築する力の育成、自己有用感を味わえる出番づくり、道徳の授業の工夫と充実に全教師が年間を通して取り組む	①児童アンケートで「学校で困った時に、先生や友達に相談できます。」との回答が80%以上
	②保護者アンケートで「学校へ行くのが楽しいと言っている。」との回答が85%以上

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①「日吉子どもサミット」「学校夢づくりプロジェクト」や各委員会の活動等で自主性やリーダー性、自己実現の力を育て、『日吉学区学推』のよさを教員が実感し、その学びを自校の教育活動に生かしていく。かがやきチェック、教育相談週間等の取組等により児童のサインや変化を見逃さない。学年内・学年間で授業実践を共有し、研究の視点をそろえながら経験年数を超えて、継続的に授業改善を行う体制づくり	①学期に1度は日吉学区内の校舎との教員との交流と研修
	②教職員アンケートで「校種間の授業公開や合同研修会を行っている」との肯定的回答が85%以上

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・4月の校内研究会の全体会議で、「学び力向上策」「7つのアクションプラン」を全職員で共通理解する。
- ・研究授業と研究会の実施およびスキルアップ研修(一人一台端末の効果的な使用等)の開催
- ・月1回開催される研究推進部の会議で協議を重ね、主体的に学び続け、「できる」「わかる」を実感できる算数科の授業づくりの推進を協議する。そこで共通理解されたことを職員会議等に提案し、教職員全体で共通理解を図っていく。
- ・滋賀県研究指定校事業を活用し、指導主事と連携して年間2回指導講話を全職員で受ける機会を設定する。